2022 年度 小委員会活動成果報告

（2023 年　2 月　8 日作成）

<table>
<tr><td>小委員会名</td><td>感覚・知覚心理小委員会</td><td colspan="2">主 査 名：合掌　顕
就任年月：2021　年　4 月</td></tr>
<tr><td>所属本委員会
（所属運営委員会）</td><td>環境工学委員会
（環境心理生理運営委員会）</td><td colspan="2">委員長名：秋元　孝之
主 査 名：宗方　淳</td></tr>
<tr><td>設　置　期　間</td><td colspan="3">2021 年　4 月　　～　　2025 年　3 月</td></tr>
<tr><td>設　置　目　的
各年度活動計画
（箇条書き）</td><td colspan="3">前身の感覚・知覚心理小委員会の活動を踏まえ、本小委員会では温熱、光、音、空気など、異なる感覚・知覚心理生理を評価の対象とする研究者、実務家の協働により、居住空間の実用的な評価手法を探ることを目的とする。

初年度：国内外における居住空間の環境評価に関する研究の動向把握
２～４年度：国内外における居住空間の環境評価に関する研究の動向把握
評価尺度、評価者、音・光・熱・空気の各環境要素の個別の影響および複合影響等に関する資料整備
研究状況の総括と当該分野における展望の提示</td></tr>
<tr><td rowspan="2">委員構成
（委員名（所属））</td><td colspan="3">委員公募の有無：無</td></tr>
<tr><td colspan="3">主査：合掌　顕（岐阜大学）
幹事：光田　恵（大同大学）
委員：松原斎樹（京都府立大学）、山中俊夫（大阪大学）、西名大作（広島大学）、梅宮典子（大阪公立大学）、土田義郎（金沢工業大学）、澤島智明（佐賀大学）、秋田　剛（東京電機大学）、原田昌幸（名古屋市立大学）、宮本征一（摂南大学）、原　直也（関西大学）、森原　崇（石川高専）、竹村明久（摂南大学）</td></tr>
<tr><td>設置 WG
（WG 名：目的）</td><td colspan="3">環境要素と複合影響評価検討 WG：
国内外における居住空間の環境評価に関する研究動向の把握､および評価尺度、評価者、各環境要素の個別の影響と複合影響等に関する資料を整備する中で、環境要素の複合影響や多様な空間における評価の違い、統計解析手法について検討することを目的とする。
居住環境評価法検討 WG：
国内外における居住空間の環境評価に関する研究動向の把握、および評価尺度、評価者、各環境要素の個別の影響と複合影響等に関する資料を整備する中で、居住空間評価のための尺度や生理量測定、評価者の個人差、評価パネルの選定法について検討することを目的とする。</td></tr>
<tr><td>2022 年度予算</td><td>166,000 円</td><td colspan="2">ホームページ公開の有無：無
委員会 HP アドレス：</td></tr>
</table>

項　　目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む） （環境要素と複合影響評価検討 WG：1 回、居住環境評価法検討 WG：１回）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー等） ＊能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．2022 年 4 月 19 日に第 1 回小委員会を開催し、居住環境評価法検討 WG 担当の研究会を開催した。研究会では 4 名の委員より、空気環境、温熱環境、音環境における評価項目・尺度・生理量の測定方法について講演していただき、種々活発な議論が行われた。 ２．2022 年 10 月 5 日に第 1 回環境要素と複合影響評価検討 WG を開催し、2 名の委員から「室内における芳香剤のにおいの評価と活用方法に関する研究」および「環境要因の複合影響に関する研究」について話題提供をいただいた。その後、各分野における複合評価研究の事例や知見について意見交換をおこなった。
委員会活動の問題点・課題	特になし

＊　小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

＊　中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用　自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	2021 年度は 3 回の小委員会を開催し、その内 2 回の小委員会において、居住空間の環境評価に関する国内外の研究動向を把握するために研究会を開催し、委員からの研究報告をもとに議論を行った。また、研究会の企画、及び準備のために環境要素と複合影響評価検討 WG を 2 回、居住環境評価法検討 WG を 5 回、それぞれ開催した。 2022 年度は 4 月に第 1 回小委員会を開催し、居住環境評価法検討 WG が主体となって企画した研究会を開催し、4 名の委員に講演を行ってもらった。また 10 月には環境要素と複合影響評価検討 WG を開催し、2 名の委員から話題提供をしていただき、活発な質疑を行なった。 以上のように、2022 年度は若干活動が滞ってはいたものの、2 年間を通して小委員会における研究会の開催を軸に両 WG で積極的な活動を行ない、初年度より国内外における居住空間の環境評価に関する研究の動向把握、多様な空間位おける評価の違い、評価尺度、評価者、音・光・熱・空気の各環境要素の個別の影響および複合影響等について種々意見交換を行い、検討を深めることができたため、中間年度評価の総合判断は「B」とした。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。